

# スタートアップ ガイド


## HP OpenView Storage

### Data Protector

製品バージョン : A.06.00

このマニュアルは、Data Protector をすぐお使いいただけるよう構成されています。デフォルト設定を使えば、ソフトウェアのインストール、バックアップや復元を素早くしかも簡単に行えます。

---

 **注記：** このマニュアルはすべての Data Protector 製品に適用されます。シングル サーバ版をご使用の場合は、このマニュアルに記載されるプラットフォームや機能の一部を使用できない場合があります。

---

B6960-96030

© Copyright 2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Part number: B6960-96030

Printed in the US.

July 2006

このマニュアルに記載されている製品名は、対応する脚注に示される各社の商標または登録商標です。このマニュアルの内容は、将来予告なしに変更されることがあります。



invent

---

## 目次

### Windows システムでのインストール 3

Cell Manager のインストール 3

クライアントのインストール 5

### UNIX システムでのインストール 6

Cell Manager のインストール 6

クライアントのインストール 7

### 次に行う手順 9

バックアップ デバイスの構成 9

メディアのフォーマット 11

### システムのバックアップ 12

基本的なバックアップ ルーチンのスケジュール設定 13

### バックアップからの復元 14

### Data Protector 関連マニュアル対応表 15

略称 15

対応表 16

Data Protector 統合ソフトウェア 17


### ライセンス 18

### 問い合わせ先 18

---

## Windows システムでのインストール

---

 **注記：** インストールに関する最も詳しい内容については、インストール用 DVD の最上位レベルの /docs ディレクトリに収められている『Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』を参照してください。

DVD ではなく CD-ROM からインストールする場合は、上記ドキュメントの付録 C を参照してください。

---

### 前提条件

- 管理サーバ (Cell Manager):
  - 256 MB RAM ( 推奨 512 MB)
  - 190 MB のディスク スペース ( バイナリ用は 90 MB、初期データベース用は 100 MB)
- バックアップ クライアント (Disk Agent):
  - 64 MB RAM ( 推奨 128 MB)
  - 10 MB のディスク スペース
- デバイス サーバ (Media Agent):
  - 64 MB RAM ( 推奨 128 MB)
  - 20 MB のディスク スペース
- ユーザー インタフェース (GUI):
  - 64 MB RAM
  - 85MB のディスク スペース ( オンライン マニュアル用 45 MB を含む )

1 台のシステムにすべてのコンポーネントをインストールする場合、そのシステムには、ディスク スペース 290 MB と、最低 256 MB の RAM ( 推奨 512 MB) が必要です。

### Cell Manager のインストール

サポート対象のシステムについては、<http://www.hp.com/support/manuals> ( 英語 ) を参照してください。

### インストールの準備

1. Data Protector Cell Manager となるシステム上で以下の操作を行います。
  - a. スタンドアロン テープ ドライブをお使いの場合、テープ デバイスを Data Protector Cell Manager に接続して、電源を入れます。

b. TCP/IP プロトコルとホスト名解決を使用可能にします。  
使用可能かどうかを確認するには、以下の手順に従ってください。

i. コンピュータ名を検索し、名前解決が正しく機能していることを確認します。

- MS DOS コマンド プロンプトを起動します。
- hostname と入力します。

使用しているコンピュータの名前が表示されます。

ii. 名前解決を調べます。

- 以下のコマンドを入力します。ping < コンピュータ名 >
- IP アドレスからホスト名を解決するため、以下のコマンドを入力します。
- ping -a <IP アドレス >

上記のどちらのコマンドでも同じホスト名と IP アドレスが返された場合、ネットワークは正しく設定されています。

(ネットワークに問題がある場合は、『Data Protector トラブルシューティング ガイド』を参照してください。)

c. 静的 IP アドレスを割り当てます。

d. Windows テープ デバイスとチェンジャを非アクティブ化します (推奨)。(Windows テープ デバイスは、このテープ デバイスに他のアプリケーションがアクセスしている場合など、例外的なケース以外は使用しないでください。)

2. システムに Administrator ユーザーとしてログオンします。

3. Data Protector で使用する Windows アカウント (dpadmin など) を個別に設定します。必ず以下の条件を満たすようにします。

- 設定したユーザーが Administrators および Backup Operators のメンバーであること
- そのユーザーに「サービスとしてログオン」権利が付与されていること

これは、必要なサービスを動作させる目的のみに必要なユーザーアカウントで、特定のシステムへのログオンには使用されません。このアカウントは、サーバおよびクライアント システムの Data Protector サービス アカウントとして使用します。Windows ドメインでは、このユーザー アカウントをプライマリ ドメイン コントローラに設定するだけで十分です。

## Data Protector のインストール

4. 適切なインストール用 DVD を挿入して ¥i386¥setup.exe を実行し、ウィザードを起動します。

5. [Cell Manager] を選択します。その後は、ウィザードの指示に従います。このとき、デフォルト値を使用します。

6. [アカウント情報] ウィンドウに、手順 3 で作成したユーザー アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

### Data Protector を実行するには

[ スタート ] > [ プログラム ] > [ HP OpenView Storage Data Protector ] > [ Data Protector Manager ] の順に選択します。

詳しくは、DVD の最上位ディレクトリの ¥docs ディレクトリに収められているマニュアルを参照してください。

## クライアントのインストール

サポート対象のプラットフォームについては、<http://www.hp.com/support/manuals> ( 英語 ) を参照してください。

### 前提条件

- インストール済みの Cell Manager
- 10 MB の空きディスク スペース
- 管理者の権限および管理者パスワード
- TCP/IP プロトコルとノード名解決を使用可能にする

### Cell Manager GUI からリモートでインストールする手順

1. システムに管理者としてログオンします。
2. [ スタート ] > [ プログラム ] > [ HP OpenView Storage Data Protector ] > [ Data Protector Manager ] の順に起動します。
3. Data Protector Manager で [ クライアント ] コンテキストを選択します。
4. Scoping ペインで、[ クライアント ] を右クリックし、[ クライアントの追加 ] を選択してウィザードを起動します。
5. ウィザードの指示に従います。


### インストール対象のシステム上でローカルにインストールする手順

1. システムに管理者としてログオンします。
2. ¥i386¥setup.exe を実行します。
3. クライアントのインストールを開始します。
4. 画面に表示される指示に従います。

---

## UNIX システムでのインストール


---

 **注記:** インストールに関する詳細については、DVD の /docs ディレクトリに収められている『Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』を参照してください。

---

### Cell Manager のインストール

---

 **注記:** サポート対象のプラットフォームについては、<http://www.hp.com/support/manuals> (英語) を参照してください。

---

バックアップ デバイスがローカルに接続された Cell Manager を、デフォルト構成でインストールする例を以下に示します。

#### 前提条件 (HP-UX)

- HP-UX 11.x
- 256 MB RAM
- 240 MB の空きディスクスペース (GUI、Disk Agent、Media Agent 用スペース + バックアップ予定のデータ容量の 2% を含む)

#### 前提条件 (Solaris)

- Solaris 8/9
- 各ターゲット システムのルート権限
- 64 MB RAM
- ksh シェル (デフォルトで提供)
- 最低 240 MB の空きディスクスペース (GUI、Disk Agent、Media Agent 用スペース + バックアップ予定のデータ容量の 2% を含む)

#### 手順


**Data Protector Cell Manager で以下を実行します。**

1. UNIX インストール用 DVD をマウント ポイントにマウントします。以下に例を示します。

```
mkdir/cdrom
mount/dev/dsk/c0t0d0/cdrom
```
2. omnisetup.sh を実行します。DVD からこのコマンドを実行するには、以下のとおり入力します。

```
cd /cdrom/LOCAL_INSTALL
./omnisetup.sh -CM
```
3. 表示されるプロンプトに従います。

---

 **注記:** HP-UX 11.23 (IA-64) または Solaris 9 上で動作する Cell Manager の場合は、GUI をリモート システムにインストールする必要があります。詳細については、『インストールおよびライセンス ガイド』を参照してください。

---

クライアントを Cell Manager からリモートでインストールするか、またはローカルでインストールします。

### **Data Protector を実行するには**

/opt/omni/bin/xomni と入力して Data Protector GUI を起動します。

## **クライアントのインストール**

サポート対象のプラットフォームについては、<http://www.hp.com/support/manuals> (英語) を参照してください。

### **前提条件**

- 10MB の空きディスク スペース (最小 • 64 MB RAM で)
- 各ターゲット システムのルート権限 • ksh シェル

### **リモート インストール**

Data Protector GUI を使って、クライアント ソフトウェアをクライアントに配布します。異なるプラットフォームへのインストールも可能です。

1. /opt/omni/bin/xomni と入力して Data Protector GUI を起動します。
2. Data Protector Manager で [クライアント] コンテキストを選択します。
3. Scoping ペインで、[クライアント] を右クリックし、[クライアントの追加] を選択してウィザードを起動します。
4. ウィザードの指示に従って操作を行います。ウィザードの各ページの詳しい内容については、オンライン ヘルプを参照してください。

Media Agent のインストール後、構成ファイル (/kernel/drv/st.conf) をチェックします。詳しくは、『インストールおよびライセンス ガイド』の「Solaris クライアントのインストール」を参照してください。

最後に、バックアップ デバイスをシステムに接続します。

### **ローカル インストール**

1. HP-UX インストール用 DVD を挿入します。

2. インストール用 DVD をマウント ポイントにマウントします。
3. <Mount\_Point>/LOCAL\_INSTALL に移動して、以下のコマンドを実行します。

```
omnisetup.sh [-source <directory>] [-server  
<name>] [-install <component list>]
```

Data Protector コンポーネントのコードの一覧については、『Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』を参照してください。

4. インストールが完了した場合やクライアントが Data Protector セルにインポートされた場合は、omnisetup によるメッセージが表示されます。CORE および CORE-INTEG コンポーネントは自動的にインストールされます。

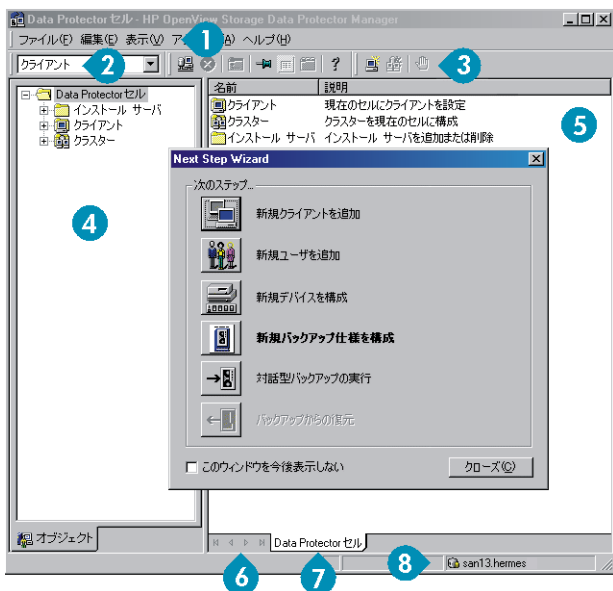
Cell Manager 名を指定していると、クライアントがセルにインポートされず。指定しなかった場合は、Data Protector GUI を使ってクライアントをインポートしてください。



## 次に行く手順

これで Data Protector Manager の実行準備ができました。

Data Protector Manager を起動します。Data Protector Manager GUI が開いて、[クライアント]コンテキストと[次のステップ]ウィザードが表示されます。



- ① メニューバー
- ② コンテキストリスト
- ③ ツールバー
- ④ SCOPING ペイン
- ⑤ 結果エリア
- ⑥ ナビゲーションタブ
- ⑦ 結果タブ
- ⑧ ステータスバー

## バックアップ デバイスの構成

### ファイル ライブラリ デバイスの構成

ここでは、ほとんどデフォルト オプションだけを使用して、基本的なファイル ライブラリ デバイスをローカルドライブまたは共有ドライブに構成する方法について説明します。その他の使用可能なオプションについては、オンライン ヘルプの索引キーワード「バックアップ デバイスの構成」で表示される内容を参照してください。

作業を開始する前に Windows 上で圧縮オプションを無効にします。

1. ローカル ディスクまたは共有ディスク上にディレクトリを作成します。

例：C:\FileLibrary

2. Data Protector を起動します。
3. コンテキスト リストから [デバイス / メディア] を選択します。
4. [デバイス] を右クリックして、[デバイスの追加] を選択します。デバイス を定義する画面が表示されます。
5. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名： (例：File Library Device 01)

説明： 適宜

クライアント： このデバイスの接続先クライアントを選択します。

デバイスの種類 [ファイル ライブラリ] を選択します。

[次へ] をクリックします。

6. 手順 1 で作成したファイル ライブラリ デバイスのディレクトリを指定し、[追加] をクリックします。
7. [次へ] をクリックします。結果エリアで、メディアの種類として [ファイル] を選択します。
8. [完了] をクリックします。

## スタンドアロン ドライブの構成

### 自動構成

1. コンテキスト リストから [デバイス / メディア] を選択します。
2. [デバイス] を右クリックします。
3. [デバイスの自動構成] を選択します。
4. リストからシステムを選択して、[完了] をクリックします。

デバイスが自動的に構成されます。

### 手動構成

上記のファイル ライブラリ デバイスの手順 4 までを実行します。

5. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名： (例：LTO-3 Tape Drive)

説明： 適宜

クライアント： このデバイスの接続先クライアントを選択します。  
:

デバイスの種類 [スタンドアロン] を選択します。  
種類:

- [次へ]をクリックします。
6. SCSI アドレスをドロップダウン リストから選択します。[追加]をクリックします。
  7. [次へ]をクリックします。結果エリアで、適切なメディアの種類 ([LTO] など)を選択します。
  8. [完了]をクリックします。

## メディアのフォーマット

Data Protector は、テープが認識できるように個々のテープに独自のヘッダを書き込みます。この項で説明するとおり、フォーマット操作は手動で行えます。また、自動で行うこともできます。Data Protector でテープを使用するには、前もってテープをフォーマットしておく必要があります。テープを Data Protector で自動的にフォーマットする場合は、この項の手順を省略してください。

---

△ **注意:** フォーマットにより、メディア上のデータはすべて削除されます。

---

1. [デバイス / メディア] コンテキストで、[プール] を展開します。
2. 適切なメディア プールを右クリックします。
3. [フォーマット] を選択します。
4. 結果エリアでドライブを選択して、[次へ] をクリックします。
5. デフォルトの設定値をそのまま使用して、[次へ] をクリックします。
6. [強制操作] と [メディア サイズ] セクションで [デフォルト] を選択した後、[完了] をクリックします。これにより、メディアのフォーマットが実行されます。

---

## システムのバックアップ

バックアップ仕様の作成手順と基本的なバックアップの実行手順を以下に示します。

1. Data Protector Cell Manager で、コンテキスト リストから **[バックアップ]** を選択します。
2. Scoping ペインで **[バックアップ]** を展開した後、**[バックアップ仕様]** をクリックします。
3. 結果エリアで **[ファイルシステム]** を右クリックして、**[バックアップの追加]** 選択します。
4. **[Blank Filesystem Backup]** テンプレートを選択して **[OK]** をクリックします。
5. 結果エリアに表示される、バックアップ対象指定の画面でディレクトリ / ファイルをブラウズして、バックアップ対象のディレクトリ / ファイルの横にあるチェックボックスを選択し、**[次へ]** をクリックします。テープ デバイスが接続されていない場合は、サイズの小さいディレクトリを数個選択するとどめてください。
6. 結果エリアに表示される、使用するデバイスまたはドライブ指定の画面で、バックアップに使用するデバイスを選択して、**[次へ]** をクリックします。
7. デフォルトのバックアップ オプションを使用するか、希望のバックアップ オプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。
8. 定義済みスケジュールを使用するか、希望するスケジュール用オプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。スケジュール設定の例については、「**基本的なバックアップ ルーチンのスケジュール設定**」(13 ページ) を参照してください。
9. 結果エリアにバックアップ仕様のサマリーが表示されます。**[次へ]** をクリックします。
10. バックアップ仕様を保存して後で使用する場合は、**[別名で保存]** をクリックします。
11. バックアップを実行するには、**[バックアップ開始]** をクリックします。
12. **[バックアップ開始]** ウィンドウが表示され、**[OK]** をクリックすると、デフォルトのバックアップ仕様でのバックアップが開始されます。
13. **[バックアップ]** ウィンドウに、バックアップ セッションの進行状況が表示されます。バックアップが完了した時点で、その旨を知らせるメッセージが **[セッション情報]** ウィンドウに表示されます。

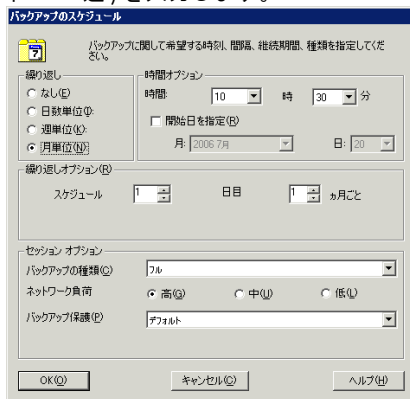
## 基本的なバックアップ ルーチンのスケジュール設定

たとえば、毎週金曜日にフルバックアップのスケジュールを設定するとともに、金曜以外の平日はすべて 21 時に増分バックアップのスケジュールを設定します。増分バックアップは 4 週間保持し、さらに各月のフルバックアップについては 12 か月保持するとします。

Data Protector には、複数の定義済みスケジュールが用意されています。「フルバックアップ (毎週)」が必要とする条件に (毎週金曜日のフルバックアップと金曜以外の平日の 21 時に行う増分 1 バックアップ) 近いバックアップです。増分 1 バックアップは、前回のフルバックアップ以降の変更をすべてバックアップします。

### スケジュールを定義する手順

1. 手順 7 (12 ページを参照) でバックアップ仕様を定義するときに、**[スケジュール]** タブに移動します。
2. **[定義済み]** をクリックします。
3. **[毎週 (フル)]** を選択し、**[OK]** をクリックします。
4. **[追加]** をクリックします。
5. **[繰り返し]** で、**[月単位]** を選択します。  
**[時間オプション]** で、毎月のバックアップ時刻を選択します。  
**[セッション オプション]** で、**[バックアップ保護]** ドロップダウンリストから **[週数]** を選択し、下部のボックスに週数 (1 年 = 52 週) を入力します。



6. **[OK]** をクリックします。
7. **[適用]** をクリックします。

---

## バックアップからの復元

デフォルトでは、バックアップ オブジェクトはバックアップ実行時のパスへ復元されます。以下に基本的な復元の実行手順を示します。

1. Data Protector Cell Manager で、コンテキスト リストから **[復元]** を選択します。
2. **[ファイルシステム]** をブラウズして、復元対象のクライアント オブジェクトを選択します。結果エリアに **[復元]** ビューが表示されます。
3. ディレクトリ / ファイルをブラウズして、復元対象のディレクトリ / ファイルの横にあるチェック ボックスを選択します。
4. **[あて先]** タブを選択して、復元先を選択します。何も選択しない場合、ディレクトリ / ファイルはバックアップ実行時と同じパスに復元されます。
5. **[復元]** ボタンをクリックします。 **[復元セッションの開始]** ウィザードが表示されます。
6. ウィザードに表示されるデフォルト設定を使って操作を進めます (**[次へ]** と **[完了]** をクリックします)。
7. 復元画面が表示されて、選択したオブジェクトのシステムへの復元状況が表示されます。

## Data Protector 関連マニュアル対応表

### 略称

マニュアル対応表とその次のページの統合ソフトウェア一覧で、HP OpenView Storage Data Protector の各種マニュアルに対して以下の略称を使用します。

略称	マニュアル
CLI	Command Line Interface Reference Guide
Concepts	コンセプト ガイド
DR	障害復旧ガイド
GS	スタートアップ ガイド
Help	オンライン ヘルプ
IG-IBM	Integration Guide - IBM Applications
IG-MS	インテグレーション ガイド - Microsoft アプリケーション
IG-O/S	インテグレーション ガイド - Oracle、SAP
IG-OV	Integration Guide - HP OpenView Service Information Portal and OpenView Reporter
IG-OVOU	Integration Guide - HP OpenView Operations, UNIX
IG-OVOW	Integration Guide - HP OpenView Operation 7.1x, 7.2x, Windows
IG-OVOW	Integration Guide - HP OpenView Operation 7.5, Windows
IG-Var	Integration Guide- Sybase, Network Node Manager, NDMP and VMware
Install	インストールおよびライセンス ガイド
MO GS	Media Operations Getting Started Guide
MO RN	Media Operations Product Announcements, Software Notes, and References
MO UG	Media Operations User Guide
MPE/iX	MPE/iX System User Guide
PA	Product Announcements ソフトウェア ノート および リファレンス
Trouble	トラブルシューティング ガイド
ZDB Admin	Zero Downtime Backup Administrator's Guide
ZDB Concpt	ゼロ ダウンタイム バックアップ コンセプト ガイド
ZDB IG	Zero Downtime Backup Integration Guide

## 対応表

各種情報の掲載先を以下の表に示します。青色で塗りつぶした場所は、初めて参照するのに適したマニュアルです。

	Help	GS	Concepts	Install	Trouble	DR	PA	インテグレーションガイド						ZDB		MO							
								MS	O/S	IBM	Var	OV	OVOU	OVOW	Concpt	Admin	IG	GS	User	PA	MPE/iX	CU	
バックアップ	✓	✓	✓					✓	✓	✓	✓			✓	✓	✓					✓		
CLI																							✓
概念 / 手法	✓		✓					✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓							✓
障害復旧	✓		✓			✓																	
インストール / アップグレード	✓	✓		✓			✓					✓	✓	✓				✓	✓				✓
インスタント リカバリ	✓		✓											✓	✓	✓							
ライセンス	✓			✓			✓														✓		
制限事項	✓				✓		✓	✓	✓	✓	✓			✓		✓						✓	
新機能	✓						✓															✓	
プランニング方法	✓		✓								✓			✓									
手順 / 作業	✓			✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓					✓		
推奨事項			✓				✓								✓							✓	
必要条件				✓			✓	✓	✓	✓	✓			✓			✓	✓	✓				
復元	✓	✓	✓					✓	✓	✓	✓				✓	✓							✓
サポート一覧							✓																
サポートされる構成																✓							
トラブルシューティング	✓			✓	✓			✓	✓	✓	✓	✓			✓	✓							



## Data Protector 統合ソフトウェア

以下の統合ソフトウェアの詳細については、該当するマニュアルを参照してください。

統合ソフトウェア	ガイド
HP OpenView Operations (OVO)	IG-OVOU、IG-OVOW
HP OpenView Reporter (OVR)	IG-OV
HP OpenView Reporter Light	IG-OVOW
HP OpenView Service Information Portal (OVSIP)	IG-OV
HP StorageWorks Disk Array XP	すべての ZDB
HP StorageWorks Enterprise Virtual Array (EVA)	すべての ZDB
HP StorageWorks Virtual Array (VA)	すべての ZDB
IBM DB2 UDB	IG-IBM
Informix	IG-IBM
Lotus Notes/Domino	IG-IBM
Media Operations	MO User
Microsoft Exchange Server	IG-MS、ZDB IG
Microsoft Exchange Single Mailbox	IG-MS
Microsoft SQL Server	IG-MS、ZDB IG
Microsoft Volume Shadow Copy Service (VSS)	IG-MS、ZDB IG
MPE/iX System	MPE/iX
NDMP Server	IG-Var
Network Node Manager (NNM)	IG-Var
Oracle	IG-O/S
Oracle Zero Downtime Backup	ZDB IG
SAP DB/MaxDB	IG-O/S
SAP R/3	IG-O/S、ZDB IG
Sybase	IG-Var
Symmetrix (EMC)	すべての ZDB
VMware	IG-Var

---

## ライセンス

Data Protector にはインスタントオン・ライセンスが組み込まれており、インストール後 60 日間ソフトウェアを使用できます。この期間中に、HP Password Delivery Center (PDC) に恒久パスワードを請求し、インストールすることができます。

必要なライセンスをすべて購入した場合、恒久パスワードを使って、ユーザーのバックアップ方針に合った Data Protector セルを構成できます。

パスワードを入手するには、以下の HP Password Delivery Center (PDC) の電話相談窓口までご連絡願います。

HP Password Delivery Center (PDC)

TEL (03)3227-5264

( 受付時間 : 午前 9 時～午後 5 時 30 分 )

( 『Data Protector インストールおよびライセンス ガイド』 マニュアルの「ライセンスング」の章に、申請フォーム等の必要な情報が記載されておりますので、上記窓口へのお電話にあたって、事前にご参照ください。 )

なお、以下のパスワード配信用 Web サイトからも、同様に恒久パスワードを入手することが可能です。

( 英語でのご案内となっております。 )

<http://www.webware.hp.com>

---

## 問い合わせ先

HP OpenView Storage Data Protector に関する詳しい情報については、下記の Web サイトをご覧ください。

[www.hp.com/go/dataprotector](http://www.hp.com/go/dataprotector) ( 英語 )

<http://h50146.www5.hp.com/products/storage/software/dataprotector/index.html>( 日本語 )

また、最寄りの当社営業所もしくは当社製品の販売会社へご連絡ください。